

富來先生の想い出

百留悦臣

富來先生のお宅をお尋ねしたのは、平成十年の秋も深まった紅葉の季節だったと思います。その時はお元気で、大分市立歴史資料館に展示する「正月のしめ縄」のお話をされ、豊前で使われているものを送って欲しい、と依頼されました。それから、帰りぎわに庭でヒメフヨウの苗木を掘って下さいました。今年、花が咲きました。年が明けてから「しめ縄」のことで杉崎先生と写真に撮り、資料館へ持っていったよ、と喜んでお電話を下さいました。しばらくして、二月十三日付で宇佐神宮史の史料がはいった便りが届き、お手紙には、調査の依頼と先生の近況が書かれていました。一月下旬以来カゼ熱で通院、二月一日のレントゲン以来点滴、宇佐神宮史も十五巻で完成ですが十頁でストップしたままです、と体調が悪く研究のすすまない御様子が伺われて心配でしたが、すぐあとからお電話があったので少しは安心していました。富來先生の突然の訃報に接した時は、信じられない思いでいっぱいになりました。

先生は論文が完成すると、いつも解説と激励の言葉を添えて、研究の方法や方向を御指導して下さいました。先生が研究されたポイントの一つである豊前平野や瀬戸内海は、八面山の頂上から一望できます。先生がお気に入りの風景でした。この豊前平野では近年遺跡の発掘調査が盛んに行われています。中津市八並の長者屋敷遺跡や、南吉富村で上毛郡衙の政庁跡と考えられる国指定史跡の大ノ瀬官衙遺跡などが見つかりました。また日本最古の戸籍にある塔里の里でも、水田整備のために、大規模な発掘が進行中です。最近の調査では弥生の住居跡から大小の足跡が発見され、家族構成についての調査結果が報告されました。古代のロマンが広がる豊前平野で、先生の御指導を基本として、今後も学習を続けたいと思っています。

心から富來先生の御冥福をお祈り致します。